



8月9日に行われた、「令和元年度世羅町子ども議会」の様子です。これからの将来を担っていく中学生たちが、世羅町へさまざまな提案をしました。緊張しながらも、しっかりと自分の意見を述べられている姿がとても印象的でした。【p2 関連記事】

今月の主な内容

- | | | | |
|-----------------------------|----|----------------------|----|
| 令和元年度世羅町子ども議会…………… | 2 | 屋外広告物の規制について…………… | 27 |
| 10月1日から年金生活者支給給付金制度がはじまります… | 8 | 令和元年度産「世羅なし」出荷セレモニー… | 32 |
| 「介護職」って魅力的…………… | 14 | 情報BOX…………… | 33 |
| インフルエンザ予防接種費用助成のお知らせ… | 19 | はじめてのおたんじょうび…………… | 40 |

令和
元年度

世羅町子ども議会

～新しい時代の「ふるさと世羅」を担う中学生が、
自分たちの考えを堂々と提案しました～

8月9日、今年で9回目となる「世羅町子ども議会」を開催しました。これは、世羅町の未来を担う中学生が、ふるさと学習（キャリア教育）の一環として、「町民生活と行政との関わりについて理解を深めること」「ふるさと世羅を愛し、関心を高めること」「町民の一人として、よりよいまちづくりに参画しようとする意欲を高めること」を目的としています。

町内の3中学校から生徒代表として、議長1人と議員9人の計10人が、子ども議会に参加しました。質問や提案等の概要を紹介します。

質問 地球温暖化防止対策としての「グリーンプロジェクト」の募集について



世羅中学校

奥川 惇世
おくがわ じゅんせい

これまでの学習の中で、世羅町には、守り続けている素晴らしい自然があり、そこには日本でも稀少な生物がいることを学んだ。地球温暖化による気温や水温の上昇、降水量の変化などによって、自然の生態系も深刻な影響を受けている。

世羅町として、現在、環境問題や地球温暖化対策に取り組んでいることはあるか。また、町民の意識を高める取組として、どのようなことをしているのか。

世羅町は小さな町だが、小さくとも一つの行動が、ふるさとの自然を守り、広い意味で世界を支えるといっても過言ではない。そこで、町民を対象として地球温暖化対策のアイデアを募集すること「グリーンプロジェクト」を提案する。これからのふ



るさと世羅町を担う、小・中・高校生だけではなく、経験や知識が豊富な地域の方々にも意見をいただければ、先入観にとらわれない素晴らしいアイデアが出てくるものと考えている。

質問 世羅町の歴史的文化的文化財の広報活動について



世羅中学校

竹中 晴菜
たけなか はるな

私たちの住む世羅町は、数万年前のナウマン象の臼歯の化石が出土するなど、多くの遺跡や寺社仏閣がある。また、今高野山を中心に栄えた大田庄について深く学ぶことができる大田庄歴史館もある。このように世羅町では、たくさん歴史的文化的文化財を通して学ぶことができるのだが、それを知らない方も多くおられるのではないか。

世羅町では、町の歴史的文化的文化財について、どのような広報活動をしているのか。

そこで提案だが、世羅町の歴史的文化的文化財を多くの方に知ってもらうために、「世羅町文化財マップ」を作成し、それを史跡巡りに活用してはどうか。さらに、観光客が多く訪れる時期にはフィールドワークを計画し、世羅町の歴史的文化的文化財を案内する企画をしてはどうだろうか。その際、文化財がある場所や史跡のそばに、各文化財の案内図を設置したり、道路を整備したりするなどして、史跡巡りをしてもらいやすい環境を整えることも重要だと考える。

質問 世羅町の就農人口を増やすための取組について



甲山中学校
住吉谷 リン

今、日本では、農業に携わる若者が減少し、高齢者の割合が増えているという現状がある。世羅町においても、就農人口の減少が見られ、特に、若者の就農率が低く、就農者の高齢化が大きな課題である。

世羅町では、就農人口を増やすために、どのような取組をしているのか。また、若者の世羅町への定住を促進したり、世羅町の農業をよりアピールしたりする取組はあるのか。

私は、「中高生対象の農業体験活動の取組」を提案する。新しい時代を担っていく多くの若者たちが農業体験することで、「農業の楽しさ」を実感して伝えることができる。また、ICTやSNSを熟知している若者が、それらを活用して世羅町の特産品について販売したりPRしたりすることで高齢就農者を支援することにもつながると考える。高齢者と若者が互いに協力し合いながら農業経営する工夫をしてみようだろうか。

質問 世羅町内での英語研修会「イングリッシュキャンプ」の開催について



世羅西中学校
福原 海斗

僕は、昨年度参加した「世羅町中学生海外研修」で、

異文化の歴史、語学、平和などについて学ぶことができた。英語を学び、身に付け、使えるようになるには、英語で話す環境、英語を学ぶ機会の充実が必要である。と考える。

世羅町では、中学生海外研修の他に、町民を対象とした語学学習会をされていると聞いたが、どのような年代の方が参加されどのくらいの人数が参加されているのか。

僕は、多くの生徒が気軽に参加でき、英語力をアップさせるという目的の研修会「イングリッシュキャンプ」の開催を提案する。世羅町内にある宿泊施設等を利用して、ALT(外国語指導助手)の先生や世羅町におられる外国人の方と、英語を使って過ごす、英語研修会を開催してはどうだろうか。気軽に英語を学ぶ機会が増えれば、多くの人が英語に興味を持つことができる。と考える。

質問 魅力的な町づくりのためのスポーツ施設の充実について



世羅中学校
金田 菜々子

私たちの住んでいる世羅町は、「道の駅世羅」や「世羅高原農場」などの観光地が充実してきたこともあり、年々観光客数が増加しているものの、町全体の人口は減少し続けている。私は、世羅町に移住する世帯を増やすための政策が必要だと考える。

世羅町には、現在、スポーツ施設の建設の計画があると聞いているが、そのスポーツ施設は、町民が利用しやすいような場所にどのような施設ができる予定なのか。現在町内には、甲山・世羅・世羅西、それぞれの地域

に整備されたテニスコートがあるが、世羅地域にある香遊フンドは市街地より少し離れているため、子どもや高齢者が行くには立地的に不便である。

これから新しく建設すると多くの時間と費用がかかるので、世羅中学校が部活動で使用しているテニスコートを活用してはどうだろうか。世羅町が所有しているクラブハウスもあるので、より早く整備に取りかかることができるのではないかと考える。

質問 安心して暮らせるまちづくり



甲山中学校
梶谷 陽向

昨年7月の豪雨災害では、死者・行方不明者・災害関連死が13人にのぼり、住宅被害を含めると甚大な被害となった。世羅町でも多くの被害が出たものの、1人の死者・行方不明者も出なかったと知り、これまでの町の防災に係る取組の成果であると考える。

世羅町では、昨年7月の豪雨災害を受け、今後、同様の豪雨や台風などの自然災害から「命を守るための新しい取組があれば具体的に教えてほしい。

次に、災害対策について二つ提案する。一つめは、世羅町の災害の起きやすい場所を知らせるための工夫である。道の駅など世羅町内でたくさんの方が利用する店にハザードマップを置いてみるはどうだろうか。二つめは、「避難所運営体験ゲーム」の実施である。避難所の設置、避難者への対応など、避難者をやさしく受け入れるために知恵を出し合うものである。これらの取組により、今以上に安心して暮らせる世羅町になると考える。

質問 世羅町の良さを広めるための「農泊」について



世羅西中学校
福原 和月

私が提案する「農泊」とは、空き家となった古民家などを改修した宿泊施設に長期滞在する中で、農業体験や自然を満喫するプログラムを行うものである。

現在世羅町内では、農業体験ができる「ドングリライフ」という取組をしていると知ったのだが、この対象



者以外で、農業体験ができる場はあるのか。また、農業体験を受け入れてくださる農家の方はどのくらいおられるのか。

「農泊」を行うことで、世羅町に親しみを抱き、本格的な移住につながるかもしれない。また、参加者が、農業体験と併せて観光地へ足を運ぶことも期待でき、世羅町のことを今まで以上に知ってもらえる機会にもなるはずである。そして、農業に直接の関わりが薄い方にも農業との接点を持ってもらい、農業に携わる人、就農者を増やすことにもつながると考える。

「農泊」をとおして、「農業の楽しさ」世羅町の良さを広められるのではないかと考える。

質問 人口減少を抑えるための大学誘致の可能性について



世羅中学校
行安 創

今、世羅町では、少子高齢化が課題になっている。高校を卒業したら町外に出る人も多いので、世羅町の人口減少はより深刻化していると思う。

世羅町では、少子高齢化を抑え、人口を増やすために、どのような政策に取り組んでいるのかを教えてください。

僕は、人口を増やし、農業を活性化させるために、「世羅町に大学を誘致すること」を提案する。特に世羅町の豊かな自然を活かし、農業に特化した大学があれば、若者が増え、大学の卒業生や職員など、世羅町への定住者の増加が期待できる。さらに、町内にある耕作放棄地を品種改良などの実験を行う施設に

すれば、放棄された土地が減るし、品種改良してよりおいしい世羅米を作ることにもつながる。ふるさと納税やクラウドファンディングなどを活用して費用を捻出したり、自治センターを活用したりすることも考えられる。

質問 町民が主役のまちづくり



甲山中学校
松崎 由実

今、世羅町では、人口減少、少子高齢化、過疎化が大きな問題となっている。町民に住み続けてもらうためには、町民が世羅町での暮らしに満足することが必要である。

現在、世羅町では、協働のまちづくりの取組が進められているが、その中で、町民の要望や意見が暮らしに反映されるような取組は、どのような方法で行われているのか。

千葉県千葉市では「ちば市民協働レポート」(通称「ちばレポ」という、ICTを使って市民が直接行政に質問や意見を伝える取組が行われている。集められた課題は、市民が自ら力を発揮して解決できるものと、行政が取り組むべきものに分け、市民が「サポーター活動」として課題解決に参加している。世羅町においても、「ちばレポ」を参考にした取組を行うてはどうだろうか。町民が「自分たちが、まちづくりを推進する」という自治意識をもつよう、協働のまちづくりを主体的に参加する町民の輪を広げていくことにつながる。

「議長」を務めて



甲山中学校

堂本

詠

子ども議会に向けて、本格的に取り組み始めたのは6月からでした。総合的な学習の時間に、クラス全員で世羅町の良いところや課題について話し合いました。また、奥田町長さんに甲山中学校まで来ていただいて、世羅町の現状と未来についてお話をいただきました。そして、自分が住んでいる地域について、深くじっくり考えてみると良い点がたくさん見つかり、「当たり前だ」と思っていたことが、本当はともありがたいことなんだ」と思いました。

その後、世羅町子ども議会の議長という大役を任されたとき、「貴重な体験ができる」という喜びもありましたが、それ以上に「そのような大役が私に務まるだろうか。スムーズに進められるだろうか」という大きな不安がありました。議長というのは議会の全責任を負わなければなりません。その責任の重さに大きなプレッシャーを感じました。しかし、このような気持ちは練習する中で薄まっていきました。なぜなら、周りの友達や先生方からアドバイスをいただいたり、原稿を読み合ったりして回数を重ねることに落ち着いて言えるようになったからです。これは周りの支えがないとできなかったことだと思います。本番一週間前のリハーサルでは、最初とても緊張して思っていたようにできませんでした。

練習ではできていたことができなかったのも、とても悔しかったです。教育長さんからのアドバイスをしっかりと聞いて、それを踏まえて、残りの一週間は猛練習をしました。

本番当日はとても緊張しましたが、後悔しないように今までにももらったアドバイスを意識して議事進行を行いました。それでも、いくつか失敗はありました。休憩時間に教育長さんが「失敗したときは『失礼しました』と言えばよかったね。でも、失敗を恐れず堂々とやりなさい」と声をかけてくださり、後半は自分でもある程度納得できる進行をすることができました。

私は、世羅町子ども議会を終えて、大きな達成感を味わうことができました。子ども議会へ参加させていただいたことで、多くのことを学びました。特に「今、世羅町で充実した生活を送れているのは当たり前なことではない」ということです。そして「町議会の方々には私たち町民のために議論をしてくださっている」ということが実感できました。だからこそ、私たちのような若い世代への期待は大きく、私たちもその期待に応えないといけないと思います。そのために「私にできることは何だろうか」と考えさせられました。そして今回の子ども議会を見た方や知った方が、一人一人世羅町について考えてくだされば、町はまた一歩、良い方向へ向かっていくと思います。

最後に、このような貴重な体験ができる場を準備してくださった奥田町長さんをはじめとする関係者の皆様、本場にありがとうございました。これからの世羅町を支えていく世代として地域行事に積極的に参加し、世羅町に貢献していきたいと思えます。

子ども議員代表挨拶

このたびは、私たちのふるさと世羅の中学生を代表し、子ども議会に参加するという大変貴重な体験をさせていただき、ありがとうございます。奥田町長さんをはじめ、関係者の皆様には、私たちの質問や提案に対して丁寧に答えてくださったことに感謝申し上げます。ありがとうございます。

私たちは、子ども議会へ参加するに当たり、各中学校の仲間とともに世羅町の未来について考える学習を行いました。その際、奥田町長さんに来校いただき、今の世羅町が抱える様々な課題やその解決に向けた取組などについて知ることができました。

私たちのふるさと世羅町は、色とりどりの花が咲き、多くの作物が実る自然豊かな町です。多くの人々を楽しませる観光の町であり、町民みんなが暮らしやすい安心・安全な町であり、町民がお互いを認め合い、支え合う町です。また、志を持って、町のために献身的に働いておられる方々も数多くいらっしゃいます。そのような皆様のおかげで、私たち一人一人の暮らしが守られていると感じました。

しかし、いずれば私たちが、この世羅町を担うこととなります。この町の伝統や魅力をより深く理解し、未来へと継承し、発展させていくために何ができるか、今後も一人一人が自分の事として考えていかなければなりません。

そのためには、まずは、私たち若い世代が、地域の行事などに積極的に参加したり、町の魅力を町内外の多くの人たちに発信したりするなど、ふるさと世羅町がより元気になるよう、私たちにできることから貢献していきたいと思えます。

終わりにになりましたが、子ども議会の開催に関わってくださった全ての皆様から感謝申し上げます。私たちが一人一人が、ふるさと世羅町のまちづくりの主体的に参加、貢献していくことを誓い、子ども議員を代表しての御挨拶とさせていただきます。本場にありがとうございました。

8月9日

子ども議員代表 世羅中学校 金田 菜々子